

# 金剛駅周辺の ウォーカブルなまちづくり



金剛地区(高辺台、久野喜台、寺池台)は昭和40(1965)年代に日本住宅公団(現UR都市機構)により開発され、都心部への良好なアクセス、充実した都市基盤と良好な住環境を備え、富田林市の西の玄関口として成熟してきました。しかし、開発後半世紀以上が経過し、人口減少、少子高齢化、諸施設の老朽化等のニュータウン問題が顕在化。老朽化した施設等の再整備や、都市空間の再編などによる都市機能の高度化等について検討を進める段階にきています。令和4(2022)年3月には、金剛中央公園、金剛銀座街商店街、南海金剛駅周辺、寺池公園の再整備に向けた「コンセプト」及び「施設・エリア毎の方向性と導入機能」を示す「金剛地区施設等再整備基本構想」を策定しました。基本構想では、金剛駅周辺において、地区活性化の中心軸となるふれあい大通りを「まちの顔」として、賑わいと多様な交流が生まれる滞留性のある空間へ再編するため、多様なステークホルダーと連携しながら、ウォーカブルな空間形成に向けた社会実験等を通じて、様々な可能性を検討することとしています。



## 金剛地区まちなかウォーカブル推進事業

金剛地区の交通結節拠点である南海金剛駅を起点とし、金剛銀座街商店街を経由し金剛中央公園までの約520mにわたる「ふれあい大通り」を地域活性化の中心軸に位置付けるとともに滞在快適性等向上区域を設定し、回遊性・滞留性の向上や交流機会の創出、賑わいづくりや住民主体の多様な取組など、ウォーカブルな空間づくりに取り組みます。



